

スチュワードシップ活動報告（2014年度）

当社は、2014年8月、「責任ある機関投資家」の諸原則≪日本版スチュワードシップ・コード≫（以下「本コード」と言う。）の主旨に賛同し受入れを表明しており、日本版スチュワードシップ・コードに関する方針を定めました。当該方針に則り実施した2014年度における議決権行使結果と対話結果をお知らせします。

なお、当社は国内上場株式の運用の大半を運用会社へ委託しています。

1. 議決権行使結果

当社の保有する日本株式について、2014年9月から2015年6月末までに開催された株主総会において下記のとおり議決権を行使しましたのでお知らせ致します。

議案の種類	件数	賛成	反対	棄権	白紙委任
剰余金処分案等	162	162	-	-	-
取締役選任	1,775	1,737	38	-	-
監査役選任	336	276	60	-	-
定款一部変更	119	118	1	-	-
退職慰労金支給	14	13	1	-	-
役員報酬額改定	72	70	2	-	-
新株予約権発行	29	22	7	-	-
会計監査人選任	-	-	-	-	-
組織再編関連	3	2	1	-	-
その他会社提案	21	13	8	-	-
合計	2,531	2,413	118	-	-

<主な反対事例>

- 取締役選任議案において、低ROEの会社に対し、当社の代表取締役の再任基準を満たさないことから、反対した。
- 監査役選任議案において、当社の監査役の独立性基準を満たさないことから、反対した。
- 買収防衛策継続の議案において、当社の社外取締役の独立性基準に合致しないことから反対した。

2. 対話活動の結果

当社は投資先企業の企業価値の増大、持続的成長を促すための対話を行い、中長期的なリターン拡大につなげて、保険契約者等に対する確実な保険金等のお支払いを支えていく方針です。2014年度においては、主に以下の観点から、運用委託先を通じて投資先企業と対話を実施しました。

対話の種類	件数
状況把握に関する対話	894 件
資産効率に関する対話	259 件
ガバナンスに関する対話	132 件
株主還元に対する対話	462 件
総対話数（※1度の訪問で複数種類の対話を含む）	1,379 件

<主な対話内容>

資本効率性について、ROEを一つの大きな物差しとして、提言を行いました。長期的に低迷する企業に対しては課題を共有するよう努め、低採算性事業や赤字事業に関しての意見を述べました。また、自己資本が相対的に優れている企業などには、資本の最適化の観点から自己株買いや配当について議論を重ねました。一部の企業で自己株買いや増配等を行うなど、一定の効果があったと考えます。

政策株式の保有について、利潤の追求、株主への利益還元、株主一般との潜在的な利益相反等の点で適切なガバナンスを確保することについて議論を重ね、政策株式保有を極力縮小すべきとの提言を行いました。一部の企業で政策株式を保有しないことをコーポレートガバナンス報告書に記載するなど、一定の効果があったと考えます。